○ 令和５年度普及指導活動の外部評価結果公表資料

<table>
<tr><th colspan="3">項 目</th><th>内 容 等</th></tr>
<tr><td colspan="3">趣 旨</td><td>効果的･効率的に普及指導活動を実施するためには、幅広い視点から客観的な評価を受け、得られた評価により、普及指導計画の検証及び改善を図ることが重要である。
このため、先進的な農業者や関係機関、学識経験者等を含めた委員による外部評価を行い、評価結果を公表するとともに、次年度以降の普及指導計画に反映するものとする。</td></tr>
<tr><td colspan="3">評価方法</td><td>普及指導活動の実施状況（普及指導計画の策定、普及指導活動の経過及び実績、成果目標の達成状況等）を評価する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">実施時期</td><td>令和6年３月 19日（火）13:30～16:50</td></tr>
<tr><td colspan="3">実施場所</td><td>HOTEL グランデはがくれ（佐賀市天神２ 丁目 1-36）</td></tr>
<tr><td colspan="3">外部評価委員</td><td>７名（先進的農業者、若手農業者、女性農業者、農業関係団体、学識経験者、民間企業）</td></tr>
<tr><td colspan="3">評価課題数</td><td>7課題（各農業振興センター1課題×全６か所、農業技術防除センター1 課題）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">主な意見･評価</td><td>佐城農業振興センター</td><td>継続課題</td><td>○ホウレンソウトレーニングファーム修了生に対する支援
・ 山間地の主要な品目であるホウレンソウについて、トレーニングファーム卒業生農家 7 戸に絞り込んだ課題設定としては非常に良い。但し、活動が技術面の収量に特化して、計画の問題点にある TF 卒業生農家の労働力が1人で出荷調整に時間を要して規模拡大を困難にしている部分を、解決する取り組みが弱いと感じた。
・ TF修了生のアフタケアは重要な視点で、意義のある課題設定だと感じる。収益のデータがなく、経営的に魅力があるのか分かりづらかった。TFの応募者を増やすためには、そのアピールが必要ではないか。
・ TF就農サポーターは、困っている就農者の良き相談相手となり、定着への大きな力になるのではないかと思った（他にも応用できるのではないか）。
・ TF 研修後のフォローとしてサポーター設置をしていることに、今後の役割に期待したい。生計を立てられる経営の確立に向けた指導を拡充していただきたい。
・ TF 修了生への就農アドバイザー制度を通して、空きハウスはもちろん、定住の支援を地域に溶け込めるよう期待している。
・ TF 修了生に対して、サポーターを設置されていた点が良かった。研修生には、TF で学んだことを確実に実行させることに注力していただきたい。</td></tr>
<tr><td>三神農業振興センター</td><td>継続課題</td><td>○トップレベルの農業経営を目指す農業経営体の育成
・ 5 戸の農業者の経営形態が異なる中で、個別に改善目標を定め、それぞれに応じて外部講師も交えながら的確に支援が出来ており、経営に踏み込むための農家との信頼関係も構築できている。企業的経営者育成の観点から、「粗収益の増加」の成果は、近年のコスト高の中では、職員自体が「所得の増加」や「企業利潤」の視点をしっかり持つべきではないか。
・ 経営感覚を備えた人材育成に向けて、計画的に高度な取り組みがなされていると感じた。地域への波及を期待したい。
・ 中心となる経営体の成功事例は、若い経営者に強い影響を与えると思います。佐賀でも中核的な経営者を育ててほしいと思います。またコスト面にも留意されていて良いと思います。
・ トップランナーへの関わりは重要で関係構築を図られている点は、長期的に取り組みを継続できるスタートをきられたと思う。フォローとモデルとしての地域への普及活動を期待します。
・ 888 推進に関しボトムアップからトップ層の引き上げに転換した点が優れている。関係機関や民間を広く巻き込んで切る点も良い。</td></tr>
<tr><td>東松浦農業振興及センター</td><td>終了課題</td><td>○「いちごさん」の栽培技術の高度化と担い手確保等による産地振興
・ 管内の主力品目であり、実施すべき課題としては的を射ている。計画では活動内容は 3 つの柱があった。そのうちの「担い手」に絞った発表でわかりやすかったが、3年間の課題であるから、計画自体をイチゴの担い手に絞り込んでいても良かったのではないか。第三者からみると、活動成果が事務局である市役所、JA の取り組みが主体にも見えるため、センター自ら成果の PR に務め、普及活動を農業者以外の県民にも認知してもらうことを意識する必要があると思う。
・ 園芸団地の確保など、体制が整えられた成果は大きいと感じる。「稼げる農業」をけん引する品目として、さらに実績を上げてほしい。
・ 地域の支援策が明確であり、農業者にとって力強い支援だと思う。また、コスト面にも留意されていて良い。
・ 産地振興にスピード感を持って取り組まれました。市町との連携は早く進んだ点は計画が有効に実践できている。早い段階からの合意形成が実を結んだ成果であると感じる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="3">項 目</th><th>内 容 等</th></tr>
<tr><td rowspan="4">主な意見・評価</td><td>西松浦農業改良普及センター</td><td>終了課題</td><td>○肉用牛一貫経営における肥育素牛育成技術の向上
・ 肥育農家が経営安定のために肉用牛一貫経営が増加している。しかし枝肉重量の低下が課題としてあり、その技術の改善という一貫経営の安定のための課題として注目された。技術改善点が明確で、農家自らが体側するなどの意識が高まったところに活動の足跡が見える。しかしこの改善技術による経営改善効果という出口面に関しては掘り下げが不十分に感じた。また、技術改善によって更に一貫経営農家が増加する点も成果目標に記載されていても良かった。
・ 個別の管理状況に応じて課題を見つけ、対策が講じられている。データを示しながら、きめ細やかな指導がなされている。
・ 肉用牛経営を取り巻く環境が厳しさを増す中で、成績向上のための支援がよく分かった。儲かる経営のために、継続した支援をお願いする。
・ 見える化による数値をもとにした取り組みが成果に結びつき、地域内外への普及を期待します。繁殖管理を一人で行うことは厳しいと思うが、今後の成果に期待したい。
・ 目標達成へのアプローチがシンプルかつ有効性の高い点が特に秀逸。PDCA の回し方も良い。課題の絞り方が優れている。</td></tr>
<tr><td>杵島農業振興及センター</td><td>終了課題</td><td>○地域農業を支える農事組合法人の組織運営強化
・ 階層別のワークショップで、アイデイアを出し優先順位づけを行うことで、戸主のみだけではなく集落全体の合意形成で組織に「魂」が入った。集落(組織)全体が課題解決に進む推進力になった。この手法は、県内いずれでも活用出来る事例となる。組織の経営利益は増加したが、今後目標とする反収水準に達すると、生産コストの上昇により、利益の上昇は厳しくなるのではないかと考えられる。新規品目拡大、生産資材費低減、省力化など組織へのフォローは必要である。
・ 集落営農組織の持続的な経営に向け、レベルアップを図るというのは、重要な視点だと感心した。IT も活用して意識改革につながっている。
・ 非常にうまくいった事例だと思う。横展開が可能だと思うので、県内の集落営農の発展につなげてほしい。
・ 生産者、構成員が積極的に課題解決に取り組む促進支援は素晴らしい成果。他の法人、地域への普及を期待したい。
・ 難しい目標に対して、粘り強く取り組まれていると感じた。高齢農家を含む組織に対し、Wi-Fi 環境や営農アプリ導入した点が優れている。</td></tr>
<tr><td>藤津農業振興センター</td><td>継続課題</td><td>○極早生みかん産地再構築による果樹園芸好循環の実現
・ 計画は前課題を引き継ぎ、コーディネート機能とスペシャリスト機能を総動員した渾身の課題である。前課題での取り組みもあり、順調に成果を上げている。しかし、計画は振興センターが全て主体的に実施することとなっており、課題の共有化を図り、もう少し関係機関との分担を考えた方が良かったのではないかと思う。分担の明確化でより活動の効率化を図ることを意識したい。
・ 収益性の向上を目指して、幅広い観点から改善策が講じられている。着実に成果が出ており、さらに波及を期待したい。
・ 収益に着目して、良い効果が生まれた事例だと思う。稼がなければ後継者が生まれないので、是非儲かる農業を支援してほしい。
・ 品種構成の変更・単価向上による産地再構築を果樹で行うことは難しいが、成果につながり、産地の活性化につながった事例。新規就農者は団地への橋渡しの仕組みを関係機関と進めてもらいたい。
・ 目標に対するビジョンが明確。プレゼンが分かりやすかった。みかんに拘らず、他品目（シャインマスカット）の導入を進めている点が良い。</td></tr>
<tr><td>農業技術防除センター</td><td>終了課題</td><td>○環境制御技術の普及推進による施設野菜の産地強化
・ これからの儲かる施設園芸としては、飛躍的な反収向上の課題は県内共通の課題である。環境制御技術に関する本成功事例で、施設園芸の飛躍的収量アップが期待でき、施設導入、規模拡大への弾みとなりうる。また、対象農家を若手農業者に絞り込んでいるところが良い。成功事例が後に続く就農者への「道しるべ」ともなる。
・「佐賀はキュウリ農家が元気だ」という評判を耳にする。デジタルを活用し、短期に成功事例を作ったのは素晴らしい。これからの農業の一つの姿を示していると感じる。
・ デジタル化は、人手不足に対処するために必要不可欠なので、広く推進していってほしいと思う。また、コスト削減効果も“見える化”すれば良いと思う。
・ 生産者に出せるデータ提供に結びつけてほしい。装置が設置できない園芸品目での簡易装置での取り組みも継続してお願いしたい。</td></tr>
</table>

項 目	内　容　等
対応策	・普及指導計画の策定に当たっては、現状分析を十分に行い、問題点等の整理をした上で課題を設定し、課題ごとの到達目標やその目標達成に向けた活動内容・方法等を盛り込み、より明確化するように努めたい。 ・今回の意見や助言等を踏まえ、より効果的で効率的な普及活動となるように努めたい。 ・普及指導活動の成果については、関係機関・団体等と連携し、民間の活力等も活用しながら広く波及するよう努めたい。